

大正十年十二月

第十三代 總裁

深井英五書簡

金融史資料	
分類記号	I A x
整理番号	2/(221)
資料名	秘書室讓受資料 (松尾總裁関係資料等)
保管容器	□ 1 0 6

研30009

通貨、金融史料	
分類	I Ba ビソ
整理番号	23/ 221
受入番号	3139
名称	秘書室讓受史料 (松尾總裁関係史料等)
備考	

70695

Fragment of text from the adjacent page, visible in the left margin. The text is partially obscured and appears to be handwritten or printed in a small font.



第十一信

大正十年十二月三十日

深井 美也

井上総裁殿

前便後同々ナリ南滿社債ノ件ニ至急理事方支店長ノ電ヲアリテ  
 コトヲ承知致修 貴方信ノ中要々ナリ。既ニ申テ對テ決定セラレ候ニ  
 結構ニ存候。シツクトラセント候ト一關係多<sup>面</sup>少<sup>側</sup>トナレ高橋子  
 ヲツシツク代ノ同地位其力ヲ求テラレタレニヨリ多ク解決スルナリ  
 シト存候

— 0 —

早備制限會議ニ終ニ近キナレ候國ノ強硬ナル態度ノ為メ滋深  
 憂慮ヲ來スニ候

是迄々申上レ候如ク何國ノ恰々也里會議ニ於テ日本ノ程度ニ取扱ニ



主要艦一協定ニ関シ米英日ノ協定ノ出来ニテ肝要ノ相諾ニ考  
 加セシトラス、右ノ洋四國協定ニ関シテ先ツ米英日ノ同ニ大艦  
 者ノ協定成リタル後之ニ加入セシトラスニ次第ニシテ、數百年間  
 歐洲大陸ニ西朝ヲ唱ヘタル何國トシテ、只ノ海ヲ傷ケラレタルト大  
 ナリト知テ修、又政治上ノ地位ノ保障、財政上ノ援助ヲ希望シ  
 タルニ地義的ノ同情ヲ寄セラレタルニシテ、實質上何事ノ獲入ヲ得ナク、  
 聊カヤケ気味トナリタルニ無理ナラザル儀ニ修  
 主要艦一協定ニ考知タルニ至テ三十五方噸ヲ要スルニ如何ニ  
 究ニ飛ニシテ人ヲ殺シタルカ、是レハ始ヨク一艦ノ楫ヲナリシガ如ク、  
 ヒニス、ブリアンノ直接交渉ニヨリ直ニ十七方噸ノ噸ニ讓歩セリ、  
 只其ノ讓歩上ノ内ニ補助艦ニ因スル苗保ヲ為シ、潛航艦ニ因シテ英米  
 ト同シテ九方噸ヲ要シ、英米ガ自ラ系索ノ九方噸ヲ六方噸ニ減シ、  
 ニ現狀維持ノ三百餘噸ヲ割者セントシタルニ、何ハ英米ノ噸數ニ関



係ナラ九方噸ヲ至張シ、其他、補助艦ニ就テ一九〇七年ヨリ建造ニ掛  
リシトテ、艦艇休日ノ至義ヲ強要セントシ、然レ是等ノ点ニ於テハ誤  
判認認トナレバ、公表ノ事實ニシテ、中東知ノ通りニ修

却説、事ノ中ニ至ラズ事情ハ前通、何國ノヤテ意味ニ因ルコト勿論  
ナレドモ、何國政治家ノ感情ニ驅ラレテ無分別ノ行動ヲ為スルコトアラズ、英  
何ノ國ニ漸次ニ隱憂ニ傾キ、何國ハ英國ニ對シテ何等カ有效ナル武

器ヲ保有スルコトヲ必要トスルニ出テ、然レモ、我ハ西半部ノ歐  
ニシテ、小生、等カ一般外交ノ局面ヨリ、此等首肯ニ得ル所ニ修  
英何ノ國ニ目下切迫セリト云フニアラズ、何カ強大ナル陸軍ヲ以テ

覇ヲ大陸ニ唱フルニ素ヨリ英國ノ好マザル所、又英國ガ漸次ニ德意ト  
提携シ、東歐ニ勢力ヲ張ラントスル傾向アリ、何國ノ快シトモ、何  
シテ、兩者ノ間ニ一帯ノ暗雲ヲ生シ居ルハ、國際政局ニ於テ見逃カズ、

カラザル趨勢ニ修、而シテ佛國ノ如ク、英國ニ對シテ多少外交上ノ地歩







補給艦 一隻  
 砲台 砲台  
 砲力制限  
 ストト又同じ  
 目的ニシテ提案  
 されし事

補フノ便宜多クシハナリ、甲申、本案ノ英米カ各自ノ潜航艦ヲ示シテ  
 以テ之ニ、日何伊ニ現状維持（我ハ三万五千噸）ヲ求メタリ際、我ハ全權ニ  
 本案ノ五千四百噸ヲ主張シ居リシカ、何ノ強強ナリ態度ノ為メ我ハ  
 主張ニ格別留意ノ的トナラスシテ、万事一歩破算ト相成候  
 米國者多ク其ノ海軍制限ノ目的ガ一半達セラレサレトナリシヲ以テ  
 失望甚クシテ、反對黨ニ之ヲ痛快トスレシメテ、ヒスリス事ハ僅カニ  
 潜航艦ノ使用ヲ制限シテ中茶ヲニゴサントシテ、此レニ何ニ何  
 海軍前中ノ潜航艦ノ全廢ヲ希望シタル英也、使用制限ニ反對ノ色  
 アリ、昨ニ十七日午前、米委員會ニ於テ老熟ノ心トシテ、温度ノ一  
 一ノトシテ其ニ声色ヲ勵マシテ、ハレフオーア、サロリニ當リ、諸君ノ  
 態度ヤ、如何シニ會議ヲ中止スレシ如クスト極言シ先由、而シテ中  
 途ニ於テ其ノ能ハ度ヲ約量シ、何モ反對ヲ緩クシ米國提案ノ趣旨  
 ヲ得、中何種整理ノ方トシ、小委員會ニ附スル中トシテ、中間我ハ全權ニ

補給艦 一隻  
 砲台 砲台  
 砲力制限  
 ストト又同じ  
 目的ニシテ提案  
 されし事



凡ニ米國ノ提案ニ種々意見ヲ表シタルニ付、米國側ハ概シ満足シタル  
由ニ爲ル

前年ニ付、陸軍制限ニ對シタルトモ、又今回潛航艇問題ニ關シテ強  
ク態度ヲ執リシトモ、米國ノ新開成ニ付、軍國主義ヲ改訂セリ、  
殊ニ今回ハ海軍擴張ニ猛烈ナリ、此ニ我國ノ一歩一動ガ尙モ米國ノ  
希望ニ及スル傾向アルトモ、直ニ之ヲ改訂セシ馬留ヲ加フルニ比較シ  
ルハ、對シテハ實ニ寛大ナリト謂ハザレバカラス、米國尙馬留ハ我ニ  
對シテ輕蔑ナシキ、米國國民一般ハ排日感情ニ依ルトシテ根柢深  
キコトヲ切ニ感セサレテ得ス、會議中ハ一スト系以外ノ新開ガ日本ニ  
對シテ比較的温和ナリ、政府ノ意向ヲ鮮シ、筆鋒ヲ抑ッテ居レモナラン  
ト謂ハザレ、又此ノ態度ハ幾クモ排日ノ鋒先ヲ緩和スルニ效果有之  
ト謂ハザレ

會議ノ始、此ノ米ニ関シテ唇ハモテ同情ヲ求メ、凡ソ、莫ク「寧ロ口



有漢ナリノ觀アリシガ、今日ニ至リテハ何ハ英ト指キタリトシ、英ノ同情ヲ  
 失ヒ、英ハ何時ハ同ニカ回轉シテ米ト親善ニナリワ、ア、英ガ国力  
 ノ現勢ヲ自覺シ、徹底的ニ隱忍スルト同時ニ、巧ニ解面ト利益ヲ維持  
 スルニ態度、今後當テ我國ノ學ブベキ所ト感嘆致ス

— — —

支那ニ關シテハ今後關稅問題ト山東問題ト之ニ商議セラレワイ、  
 關稅問題ハ、稅制自主トカ、直ニ一割ニテ五厘ニ引上グルト云フ<sup>支那例</sup>  
 一理想論一向ハ人見ナク、英國例トセテ五厘案ヲ基礎トシテ進行シ、  
 日本ガ急激ナル増率ヲ迷惑トスルノ意見ニテ<sup>英例</sup>傾聴セラレ、英國商  
 人ヨリテ異議出テタリシ、如ク、格差差向ヲ<sup>英例</sup>現實トシテ相為ニ改可シ、  
 是ノ<sup>英例</sup>關係<sup>英例</sup>在<sup>英例</sup>英ガ支那ニ於テ協定スベキ期日、條件、増收金使途  
 ニ<sup>英例</sup>隨<sup>英例</sup>心、更<sup>英例</sup>ラ<sup>英例</sup>ニ<sup>英例</sup>テ<sup>英例</sup>五<sup>英例</sup>厘<sup>英例</sup>ノ増率ヲ為スコトニ落着カズベキ模樣ニ<sup>英例</sup>隨<sup>英例</sup>、<sup>英例</sup>國  
 境關稅ノ特等産業ニ示已キヲ得ザル所トシ、日本ハ増收金ノ使途



中二期限到来ノ外債償還ヲ容ルコトヲ希望セシム。是レハ前記ノ如ク

關係國委員ノ決定ニ待ツベキコト、可相成模様ニ候

山東問題ハ米國ガ對内策上ニ重キヲ置ク所ニシテ、相与ノ結束ヲ免ル

ニテラサレバ支那ニ國之協定ノ批准免来トキ事情モ有之候由、而シテ

日本政府モ件々強硬トシ、今後ノ推移容易ニ逆映シ難ク候、会

議ノ外ニ於テハ直接談判ニ相違ナケドモ、相与ハ支那ニテラズシテ、

立会人タル莫米、殊ニ米國ニテリト可申候、本ハ談判席上ニ於テハ

立会人ハ何等モ發言ヲ為サズ、只室ノ一隅ニテ傍聴シ居ルニシ、本問題

ノ経過ニ就キテハ種々面白キ事實ヲ圖知ス、又ハ同知致居候トモ、後日

ニ讓リ申候

鐵道問題ハ權利問題ハ米國ノ保護線中ニ掲ゲテレドモ未ダ強ク

申シ居ラス、米國者為ハ極早問題ニテ苦キ經驗ヲ嘗テ、國際會議ノ

如何ニ云ケシキカヲ知り名ハ、卷ニ面倒ナレ問題ヲ避ケ、早ク切上ゲタキ

云々

會議



高向トラントノ觀測ニ有之候

又米國ハ支那ノ混亂狀態ニ憂懼ヲ念ルニタリカ如ク、政府亦動ヨラセ  
デタリト思ヒ、新聞記事ニ於テ督軍ノ暴狀等ヲ詳報スルモノアリ、支  
那ニ関シテ理想的協定ヲ為スノ不可能トコトヲ國民ニ知ラシメントシテ  
アレバ之ニ喜モセラル候

— 0 —

太平洋回國協定ハ只日英同盟ノ存否ヲナリト云フヲ以テ是レトイ  
知人側ノ通譯ナリ、協定ノ地理的範圍ニシテ解釋上ノ紛議ヲ起シ  
タレトウ承知ス通リナレバ、新聞ノ傳フ所ニヨリ、日本口部ヲ包含スル  
文字ヲ用ケタレバ、英國が豫洲トノ權衡上希望シタレ所ニシテ、米日  
協定ニシテ重キヲ置カザレシ由ニ候、只ノ經濟ノ真相ハ未ダ承知致  
ス、

— 0 —



經濟會議問題  
 最近歐洲之移  
 入進構困難  
 以上

重從諸君之  
 以上







